

枚方市 まちづくりワークショップだより

第4回

2014年3月
発行

平成26年2月24日(月)に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、「第4回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第4回は市民等25名の参加で、4つの班に分かれて「活気・魅力ある暮らしのために」をテーマに話し合い、様々な意見・提案が出されました。

【当日の流れ】

- ◇前回のワークショップだよりの確認
- ◇ワークショップの進め方の説明
- ◇ワークショップ(班別)
 - テーマ「活気・魅力ある暮らしのために」
 - ・班ごとに意見を出し合う
 - ・各班の発表を行い、全体で共有する
- ◇今後の進め方の確認



※左からA班、B班、C班、D班のワークショップのようす

各班から出された主な意見【 テーマ「活気・魅力ある暮らしのために」 】

○「歴史文化芸術を感じられるまち」に

市の活気や魅力を生み出すためには、市に残る歴史文化などの地域資源を活用すべきとの意見が多く出され、史跡や枚方宿、菊人形、水運など様々な観光資源を充実し周知することで、集客につなげ、観光が盛んなまちにしていけるべきとの意見がありました。また、小さい頃から芸術・音楽にふれられる環境づくりが大切で、文化芸術ホールの整備なども必要との意見が出されました。

○「枚方市駅周辺の活性化」を

全班に共通して、市の玄関口・顔となる枚方市駅周辺の活性化が重要との意見がありました。高層ビル化のほか、商業や文化、行政など機能別の集積、景観に配慮したまちなみなど、人が集まる市街地の整備に向けて将来ビジョンをもって進めていくべきとの意見が出されました。

○「市内大学との連携」を

～ 世代間交流で学生と地域とのつながりを ～

全班に共通して、市の地域資源である市内6大学との連携を進めるべきとの意見が出され、学生と地域が交流することで、学生の力を福祉やコミュニティなどの活動に活用していくことが必要との意見がありました。また、大学と行政、大学同士の連携も必要で、学生が引き続き枚方市に住んでもらえるよう、企業誘致による雇用創出や住む場所の確保などの環境づくりを進めるべきとの意見が出されました。

○「まちの魅力発信の充実」を

市内の歴史文化などの観光資源や大学でのイベントなど、人を呼び込むような市の魅力について、いかにPRしていくかが重要との意見が共通して出され、市内、市外、国外への情報発信の強化を図っていく必要があるとの意見が出されました。

次のページより、各班(A～D班)で出された意見・提案内容の詳細です。

A 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
文化・芸術・スポーツが活発になる環境	○市街地に集まりやすい場づくり *市が市街地に集まりやすい場を設けてほしい *今ある施設をうまく活用 ○文化的なものを中心で行う人や場づくり ○限られた予算で上手に行政と市民が協働
国内外へ発信できるイベント・名物の創出 *枚方の特徴を活かすような催し、学習 *国内外から人が訪れたり集う名物やイベントの創出	○各イベントの充実・見直し・アピール *イベントの実施主体が分かれているので、まとめる必要がある ○小さな宝をほりおこす *まちの中にたくさんある小さな宝をほりおこし大切に努力（例えば百済寺跡、人形劇、天体望遠鏡、いろいろな人など） ○菊人形を世界遺産に ○大学との連携のあっせん *市内の大学との連携をとれるように、市にあっせんしてほしい ○世界的アーティストの滞在できるゲストハウスづくり *世界的アーティストが滞在して制作活動ができるハウスの提供（“くらわんかハウス”）
子どもたちが夢をもてる環境	○職場体験の充実 *単なる体験に終わらず、地域で働いている大人と、子どもの交流を大切に *安定した職を夢とするのではなく、匠との出会いなどによる夢へのきっかけ
人が安心して生きていける環境 *活性化の裏返しで（活性化を支える）安全が大切	○安全な環境の創出 *みんなが気持ちよく過ごせるよう、それぞれに意識してもらえる働きかけ
枚方市駅周辺の活性化	○再開発の成功 *枚方市駅前の近鉄百貨店跡地の再開発、中心地が活性化するようビジョンをもって進めてほしい *枚方市駅周辺は多面的な開発が必要 *枚方市駅前の陸橋が暗いイメージ *メセナなど今ある施設の活用 *枚方市駅周辺全体の商業配置を考えたテナントミックスが必要 *行政でできる範囲はきちんとする
各地域が多面的に魅力を出す *各地域の魅力・特色を生き生き打ち出し、多面的な魅力あるまちに	*里山や大学など多面的に魅力を打ち出す ○生涯学習市民センター（公民館）の活性化

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「文化・芸術・スポーツが活発になる環境」「国内外へ発信できるイベント・名物の創出」「子どもたちが夢をもてる環境」「人が安心して生きていける環境」「枚方市駅周辺の活性化」「各地域が多面的に魅力を出す」があげられた。
- 文化・芸術・スポーツが活発になる環境に向けては、市街地に集まりやすい場づくりが大切で、今ある施設の活用や市民と行政が上手に協働しながら活性化していくべきとの意見があった。
- 国内外へ発信できるイベント創りについては、イベントのアピール、百済寺跡などまちなかの宝のほりおこし、菊人形の世界遺産登録などの意見があった。そのアピールにおいても大学との連携が必要で、そのつなぎ役を市にしてほしいとの意見が出された。
- 子どもたちが夢をもてる環境に向けては、職場体験などの充実が必要との意見があった。
- 枚方市駅周辺の活性化においては、再開発の成功が鍵で、ビジョンをもって進めてほしいとの意見があった。
- 地域ごとの魅力化については、生涯学習市民センターなどを活用し、各地域の魅力・特色を打ち出し、多面的に魅力あるまちを目指すべきとの意見が出された。

こうなったらいいな	そのために必要なこと
いきいきと働けるまち *働きたい人が元気に働ける *市民で新しい産物を育てる *企業誘致・建設、コミュニティビジネスを育てる *ベッドタウンから働けるまちへ	○事業所助成と産業育成 *産学民公の共働、開発援助 ○学生の雇用 ○津田サイエンスヒルズのさらなる活用 ○枚方独自のものをつくる *世界一の民生用携帯翻訳機があればいい（実用） 変える
歴史文化芸術を活用したまち *あらゆる観光資源を活用した集客交流の広がるまち *若者が活発に活動しているまち *人が主役の「ゆとり」と「賑わい」と「おしゃれ感」のある中心市街地（枚方市駅周辺） *地域通貨でボランティアの有効活用ができる	○「枚方市駅周辺再整備ビジョン」のスピード感を持った強力な推進 ○総合文化施設の早期設立 ○民間活力の活用とその場の確立 *つながりづくりは行政 *市民の考えを行政が吸い上げて、市民が行政を後押しし、スピーディに行政が受け入れる *主導権を市民に ○行政に代わり民間による施設運用 *施設は行政が用意、運営は市民 *文化センターは中途半端。民間との連携による運営 *ストリートミュージシャンのつながり（行政がコンサートを開催する） ○広報の充実 *定期観光マイクロバス *観光マップ、掲載スポットの整備 *観光案内所を枚方市駅中央コンコースへ *地域の特性を活かす ○地域通貨の活用 *発行の簡素化と利用店舗の一般化 守る
つながって活かせるまち *各大学の学生と枚方住民（親・高齢者・子ども）の世代間交流が盛んなまち *好きなことが思う存分できる	○6大学とつながる *6大学と市民が交流、連携していく *各大学の学生が地域に入り込んでいく *地域も大学という資源を活用していく *大学の門を広げる（出入りしやすい案内表示） *市のホームページを活用（大学がローテーションで作成） ○活動のつながりづくり *活動がつながる、広がる土台がないので、広げるためのしかけが必要 創る
*音楽があふれるまち *エフエムひらかたの盛り上がり	○枚方出身の有名名人に協力してもらう *例えば、V6の岡田准一さん、森脇健児さんなど

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「いきいきと働けるまち」「歴史文化芸術を活用したまち」「つながって活かせるまち」があげられた。
- いきいきと働けるまちに向けては、産業の育成・雇用の創出を図り、働きたい人が元気に働けるようにすべきであり、枚方のベッドタウンの特性を活かしながら、働けるまちへ「変える」ことが必要との意見があった。
- 歴史文化芸術の活用は、市民が活気づき、外から人を呼び込む効果があり、市の玄関口となる枚方市駅の周辺や総合文化施設についてスピード感をもったビジョンの実現が必要との意見が出された。また、枚方市には名所旧跡があり観光資源を効果的にアピールし、観光資源を「守る」ことが大切との意見が出された。
- つながって活かせるまちに向けては、市内6大学といった資源を十分に活用し、大学と地域との交流、行政との連携によって活気を生み出して行くことが大切で、つながりを「創る」ことが必要との意見があった。
- 働けるまちへ変え、歴史文化を守り、つながりを創ることで市の魅力を引き出していくためには、市民が主導となり、行政が市民の意見を吸い上げて進めていくことが必要だとまとまった。

C 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
旧国道 1 号と枚方市駅前との間のまちなみが整備されたまち	○枚方市と大阪府とのタイアップによるまちなみ整備 *進めやすいところからスタート ○高層ビル化の推進
若いお母さんが子育てしやすいまち	○世代間で時間を援助 *小さい子をもつお母さんが病院などで待ち時間を過ごさずとも優先的に診てもらえるような仕組みづくり *特急券（診察優先券）を発行するなど地域での助け合いにつながる取り組みの実施 *みんなが理解し合って、ゆずり合いを促すような取り組み
大学施設が開放されているまち *学校を卒業しても身近に学べる必要がある *大学の新しい情報発信 *関西外大の ICC の教室などを一般開放	○大学の年間スケジュール（コンサート、公開講座、演劇など）の周知 *大学側の積極的な広報 *大学施設が借りやすくなるとよい *関西外大は比較的開放されている ○広報ひらかたの活用 *市内 6 大学などの情報が掲載されている「ミニ情報」の枠をもう少し大きく *分野別の広報ひらかたの作成（現在は情報量が多すぎて見づらい） *行政が大学の情報を収集し、広報することはできないか
ずっと学び学習できるまち	○大学生のボランティア活動 *大学の単位取得を前提
国際芸術祭があるまち *オペレッタなど	○小さい頃から芸術に親しめる・参加できる機会・場所が必要 *例えば、だんじりまつりなど *最初は民間施設（大学など）から始めてもいいのでは
姉妹（友好）都市交流	○国内の姉妹（友好）都市交流を深める *市外から人を呼び込むことができる祭りなどの開催（例えば、瀬戸内芸術祭など） *一番賑わっていた花火大会がなくなり、ひらかた大菊人形も閉幕
水運を活用できるまち	○京都方面へも水運をつなぐ *カヌーなどの利用で京都方面へ行けるとよい

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「旧国道 1 号と枚方市駅前との間のまちなみが整備されたまち」「若いお母さんが子育てしやすいまち」「大学施設が開放されているまち・ずっと学び学習できるまち」「国際芸術祭があるまち・姉妹都市交流のあるまち」「水運を活用できるまち」があげられた。
- 特に議論になったのは、大学施設の開放についてで、大学での公開講座などの年間スケジュールの周知、広報紙の効果的な活用のほか、単位取得を前提とした大学生によるボランティア活動が必要であるとの意見があった。大学でコンサート、講座、演劇などが公開されることで、小さい頃から身近で芸術に親しめる場として大学が活用されるとともに、大学生のボランティア活動に波及すればよいとの意見が出された。
- 旧 1 号線と枚方市駅との間（市駅周辺）のまちなみ整備に向けては、大阪府とのタイアップによる整備、高層ビル化の推進が必要との意見があった。
- 子育てしやすいまちに向けては、小さい子をもつ母親が病院で優先的に診てもらえるよう世代間でゆずり合う時間の援助について意見があった。
- 水運の活用については、カヌーなどの利用により京都方面へも水運をつないでいければとの意見があった。

D 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
音楽・芸術にふれられるまち *データのオープン化により、個人が何でも見つけられるように	○もっと身近に音楽・芸術にふれられる環境づくり *文化、芸術、芸能、スポーツ界の第一人者の助言・協力を得て市民の文化活動につなげる
みんながまちの魅力を知ることができるまち *データのオープン化により、個人が何でも見つけられるように	○市の情報のデータベースづくり *市民が枚方市の魅力を発見できるデータベースの構築 ○情報発信・広報強化でアピールする *枚方観光ボランティアガイドの会があり、語り部など活動中 → もっと活性化・アピール
観光がさかんなまち *五十六次復活(泊まりたくなるまち) *ひらかたパークだけではないことを市外に広める	○ひらかた大菊人形の復活(人材育成から) *ひらかた大菊人形の復活。菊人形の職人を助成する仕組みづくり ○歴史・文化財・史跡を活かした取り組み *史跡を活かした公園づくり、枚方宿界隈の充実 *観光コース・マップづくり ○宿泊施設の充実 *昔のひらかた温泉のような施設や、ビジネスホテルがあるとよい *友好都市との交流の際、来訪者が泊まりたくなるまち
魅力ある中心市街地 *枚方市駅・樟葉駅・長尾駅周辺の活性化(トライアングル構想) *枚方市駅の高層化による活性化 *北部と東部をLRTで結ぶ	○枚方市駅周辺の再々開発が必要 *魅力あるまちづくりが市街地を活性化させる *駅前の景観づくりが必要 *修学旅行生が訪れるようなまちに *商業・行政機能を集積させる *文化芸術施設を集積させる(電車で行けるところに) → 駅前に芸術ホールを *ビジネスホテルをつくる
景観に配慮した魅力あるまち	○地域の景観向上 *景観条例などで行政が指導 *地域ごとに区分して住居景観を改善
大学生の力を活用するまち *大学生のハワ活用(職・住定着) *NPO、ボランティアに活用 大学と連携し交流のあるまち *各大学と地域コミュニティとの交流を活発に *立ち寄りやすい地域の大学に *大学間の連携	○大学生が枚方市に残れる、残りたいと思う環境づくり *各大学の働きかけについて、行政の力で推進する *企業誘致(卒業しても残れるように) *住む場所の確保(住んでもらえる環境づくり) ○世代間交流、地域の福祉、コミュニティへの参加 *大学生の力を福祉づくり、コミュニティづくりに活かす *世代間交流事業の活性化 ○産・学・民協働のシステムづくり *地域が主体となった学内イベント *大学(先生)と行政の関係づくりの強化 *大学による政策立案コンテストの実施(イベントづくり)

少子高齢化の歯止め
税収増加に有効

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「音楽・芸術にふれられるまち」「みんながまちの魅力を知ることができるまち」「観光がさかんなまち」「魅力ある中心市街地」「景観に配慮した魅力あるまち」「大学生の力を活用するまち・大学と連携し交流のあるまち」があげられた。
- 音楽・芸術にふれられるまちに向けては、芸術ホールの建設などが必要との意見が出された。
- まちの魅力を知ることができるまちに向けては、市民が魅力を発見できるデータベースを構築し、市のホームページをより見やすくするなど情報発信・広報の強化が必要との意見があった。
- 観光がさかんなまちとなるためには、菊人形の復活(担い手の育成)や、史跡公園づくり、枚方宿界隈の拡大、駅付近での宿泊施設などが必要との意見があった。
- 中心市街地については、枚方市駅・樟葉駅・長尾駅の活性化が必要で、特に枚方市駅周辺では高層化のほか、商業・文化芸術・行政などの各機能を集積させることや、景観づくりが必要との意見が出された。
- 大学生の力の活用については、地域主体の学内イベントなどによる産・学・民の協働や、学生の力を福祉・コミュニティに活かしていくとともに、将来、学生が枚方に残り、税収増加や少子高齢化への歯止めをかけるためにも、企業誘致や住む場所の確保など残りたい環境づくりが必要との意見が出された。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

ふりかえりシートより

主な意見・感想を紹介します。

【意見・感想】

- 互いにコメントしやすい雰囲気があり良かった。
- 次回に向けてあらかじめ考えなどを持っていないと話ずときに意見を出せないと思った。
- みなさんの熱い思いがより良い枚方につながればうれしい。
- 4回の議論が終わったが、「これぞ枚方」というものがなかなか見つからない。
- 形を整えることに捉われすぎているようで、もう少し余裕のある時間配分で、参加者が自由に意見を言えるようにしたほうがよいと思う。
- テーマが広く絞り込めなかったので、2つに分けてやりたかった。
- イメージをまとめるため、自由に話し合う時間としてはどうか。
- 「こうなったらいい」に対し、何が課題なのかを検討してから、必要なことを検討してはどうか。
- 大学の施設を活用できるよう、地域や行政が働きかけ、協働で公開講座等が開催されれば、地域の顔見知りが増えて生活し易い社会になるのでは。
- もっと全員が均等に発言し合えるように努力していきたい。
- 「枚方市に行きたい」というまちづくりのために、行政ではない中間機関があってもよいのでは。また、「なんでもやる課」などがあれば、市民意見が反映されやすいのではないかと。

- 活気・魅力について、暮らしの活気なのか、まちの活気なのかがあいまいだったように思う。
- 文化芸術の場としては、優先的に若者が活用できる場にしてほしい。
- 大学との連携は大きな可能性があると感じた。
- ボランティアに見合った地域硬貨などの代償が必要ではないか。6大学のボランティアは枚方の持つ資源活用の点で大事であり、行政が援助することも必要ではないか。また、NPOやボランティア団体などの連携を持たせる仕組みづくりが枚方に活力を持たせると思う。
- 参加者から出た意見の全文を共有したい。
- 具体的な意見やアイデアが出てきて良かったが、横に広がりすぎてきた気がする。第7・8回は、各班が1つのテーマを具体的に検討し、その実現性について考えるのもいいのではないかと。
- 学ぶこと、即ち「知」の好奇心を満たすことが、暮らしの活気・魅力につながると考えている人が多いことがわかった。

【編集・発行】枚方市 政策企画部企画課

TEL : 841-1221 FAX : 846-5341

Email : kikaku@city.hirakata.osaka.jp